

平成28年度

学校関係者評価報告書

平成29年9月

学校法人筑波研究学園
成田つくば航空専門学校

○平成28年度 学校関係者評価報告書について

成田つくば航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、および航空ビジネス学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。

本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

1. 実施日時・場所

平成29年9月19日（火） 14:00 ～ 16:00

成田つくば航空専門学校 E22教室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員

中満悦郎	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長
福田和磨	株式会社 JAL エンジニアリン 総務部統括マネジャー
新藤秀明	日本飛行機株式会社 人事部人材育成課長
谷村隆士	株式会社 IHI 航空宇宙事業部 武蔵総務部 主幹
栗川勇太	株式会社インテック 業務部業務課 課長
高野裕二	アイベックスアビエーション株式会社 安全管理部長
小川浩一	アイベックスアビエーション株式会社 整備部長
古谷豊	取手市小堀地区 区長
渡邊和浩	成田つくば航空専門学校 保護者代表
小林まい子	成田つくば航空専門学校 保護者代表
東屋善昭	成田つくば航空専門学校 保護者代表
古橋幸雄	成田つくば航空専門学校 保護者代表
伊大知竜太	成田つくば航空専門学校 卒業生代表

○学校関係

柿崎明人	成田つくば航空専門学校 校長
山口繁則	成田つくば航空専門学校 副校長
檜山直己	成田つくば航空専門学校 事務部長、入学広報部長
山本卓二	成田つくば航空専門学校 教務部長
春日由光	成田つくば航空専門学校 進路渉外部部長、学生部長 エアラインサービス学科長
藤井伸一	成田つくば航空専門学校 航空整備学科長

佐藤宣知	成田つくば航空専門学校	グランドサポート学科長
谷 修	成田つくば航空専門学校	航空工学課長
染谷敏文	成田つくば航空専門学校	総務課長
染谷真	成田つくば航空専門学校	事務局

- (2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠
- (3) 評価方法：平成 28 年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 自己評価は、以下の 10 項目を実施します。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

- (1) 次の 4 段階をもとに「学校自己点検・評価報告書」の各評価項目の平均点を小数点以下第 1 位までを評価。
- (2) 委員会で出された意見や質疑、提案事項を記載。

5. その他

平成 28 年度 学校自己点検・評価報告書を併せご覧ください。

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標 評価 4.0

- ・ 学校の理念・目的・育成人材像は、明確になっており、適切に公開されている。
- ・ 新体制の下で、航空業界の動向と学校の中・長期計画を見据えた理念等を検討していくなかで、具体的なビジョン、目標値なども明確化されると、より良いものになるのではないかと。

(2) 学校運営 評価 4.0

- ・ 学校運営に関係する規則等は整理されており、適切に運営されている。
- ・ 教員の平均年齢は依然高いが、企業からの出向受け入れなどで、比較的若い教員の採用も進んでいる。
- ・ 自己評価や学校関係者評価等において課題とされたものについて、改善の方向性や進捗がわかるものがあるとよい。

(3) 教育活動 評価 4.0

- ・ 教員に対する研修は、企業内で行われている研修に参加することも検討してはどうか。
- ・ 教育者としての心構え、教育心理学等を学ぶ研修を導入することは良いと思われる。

(4) 学修成果 評価 3.8

- ・ 国家試験に合格したら卒業を待たずに就職する学生は、中途退学扱いとなり、学校のネットワークから外れてしまうが、こうした学生についても学校の同窓会ネットワーク等に入れる仕組みを検討していく。
- ・ 就職内定 100%で、今後は第一希望の企業への内定率を上げていく方針だが、第一志望の企業だからと言って、学生と企業のマッチングが最善とは限らない。早期離職を防ぐためにも、学生と企業のマッチングも大切である。
- ・ 卒業生でも第一志望ではない企業に就職しても、良い結果になるケースもあるので、卒業生の企業での仕事ぶりや成長等に関する情報をもっと収集しても良いのではないかと。

(5) 学生支援 評価 3.6

- ・ クラブ活動は、チームワークやコミュニケーション能力を育てるのに有効である。また、採用時の評価にもつながるので前向きに検討してほしい。

(6) 教育環境 評価 3.0

- ・ 海外研修について、目的をもって行うことが大事である。知見を広げることも大事だが、航空業界で働く者として消費者の立場に立って旅程の作成や航空チケットの購入など自ら計画・体験することも有効な研修になるのではないかと。
- ・ 研修では、学生が何を学んだかが大事である。国内研修等や別の方法でも目的が達成できるのであれば、海外研修を評価対象から外してもよいのではないかと。
- ・ 防災について、定期的実施している消防訓練を充実させるため取手消防署と連携したものを検討していきたい。

(7) 学生の受け入れ募集 **評価 4.0**

- ・ 学生募集に関する情報管理システムが導入された。このシステムを有効活用し、分析、募集戦略策定、推進等を行い、より良い募集活動につなげていく。

(8) 財務 **評価 3.8**

- ・ より安定した財務基盤を築くため、学生確保と経費節減に努めていく。

(9) 法令等の遵守 **評価 4.0**

- ・ 個人情報の管理は、学校管理システムの導入とネットワーク上のセキュリティー対策を導入したことで、より確実なものになっている。

(10) 社会貢献・地域貢献 **評価 2.7**

- ・ 毎週金曜日の学校敷地と周辺の清掃活動は地域貢献として評価に値する。
- ・ ボランティア活動は、学生が参加できそうなものを情報提供し、参加は学生の主体性に任せればよい。ボランティアに参加した学生には、レポート等により記録を残し、就職活動につなげられるような仕組みがあるとよい。
- ・ ボランティア活動は目的を持って取り組み、活動を通して何かを得ることが大事である。
- ・ ボランティア活動は、個人活動だけでなく、学校を挙げて行う地域貢献でも良いのではないか。

以上